

(68)0611 庭・畑仕事は自然療法締め切り060815

提出060808

森の生活への懐古

わたしは、庭・畑仕事が好きです。時間があると、1日中でも外の仕事をしています。庭・畑仕事は自然療法であると考えの人が多くいます。わたしは、自然療法とは人が太古の森で行っていた生活への懐古ととらえています。医療の原点と考えている癒しにつながるものでしょう。畑仕事は、わたしにとっては趣味で、生計を立てている訳ではありませんが、何か収穫があると、大喜びです。

考えてみると、ヒトは太古の昔、森の中で植物の採集と動物の狩猟をして食物を入手していましたが、食料の確保の点では極めて不安定だったと考えられます。ところが植物の栽培、すなわち畑を利用することを覚えて、食料の継続的な入手が可能になり、おいに安心感が高まったと考えられます。この喜びが、

DNA を通じて私の頭の中に継承されており、畑での収穫が喜びになると考えられます。しかし、気候状況が悪く収穫が極めて悪いときには、これで生計を立てるのは恐ろしくて、大変だなあとつくづく思います。そんな時でも、篤農家といわれる人たちは、十分な知識と技術を注入してそれなりの収穫を上げるもののようです。

でも、必ずしも収穫に結びつかなくとも、庭に出て作業すること自体が喜びでもあります。周りに人がいないときには、小さな草花に声をかけ、小鳥の囀りと一緒に自作出鱈目の歌を歌い、子供のときに帰ることができま

す。

10年ほど昔になりますが、別荘のある旧上九一色村からは大分山を下った鳴沢村の農協が畑用の土地を年間契約で貸してくれ、農作業も教えてくれるとの情報を得ました。そこで10坪程の土地を借りて、トウモロコシ・イモ・大根を収穫し、冷凍トウモロコシや切り

干し大根などの保存食料を作って独りで悦に入っていたことがありました。しかし、別荘からは10キロメートル以上も離れていましたから何かと不便なものでした。

### 自分の庭に畑

どうしても、別荘の土地の中に畑をつくりたいと思いました。私の別荘は富士山一合目の高地にあたり、土地は火山灰地とわずかの表層土とが混じった状況にありました。

実は、その数年前に自分の土地に果実の成る木を植えたことがありました。初めは、試しにと、ブルーベリーやブラックベリーを植えました。生着したようではあったのですが2・3年後に何となく木の勢いが悪くなり枯れてしまいました。別荘の庭には、ほぼ毎年雪が降り、多いときには1メートルくらいも積もり、年に何回かは零下10度くらいまで気温が下がるので寒くてダメなのかなとも思いましたが、自分の出身地である札幌のことを

考えれば寒さだけのことではないように思われ  
れました。そのうちに、朝霧高原に近いところ  
ですから夏でも午後になると霧がかかるこ  
とから、日照時間が少ないことが原因かと考  
え、これはちょっとダメかとあきらめていま  
した。それでも、やっぱり自分の庭に畑が欲  
しかったのです。火山灰地では、地質を改良  
しなければならぬと考えられました。ちょ  
うど、管理事務所の人が、旧上九一色村の牧  
場から牛糞を安く買うことができることを教  
えてくれ、3トンの牛糞を5坪くらいの広さ  
に敷き詰めて畑を作りました。1年目に、種  
イモの量の2倍くらいのイモが収穫できまし  
た。カブ・ダイコンなどもちょこちょこ食べ  
ることができました。ところが、枝豆用の大  
豆や、トウモロコシの種は、発芽する前に土  
に穴を開けてすっぽり抜き取られてしまった  
のです。土を蹴散らして探すのではなく、ま  
ことに見事に土に直径1センチくらいの穴を  
開けて抜き取ってしまう奴がいるのです。思

い当たるのは、キジの夫婦です。隣の土地にキジが住み着いていて、ときどき大声をあげ、私の庭を走りぬけるのを見ていました。そして、翌春の花の咲くのを楽しみに植えた、水仙・クロッカス・チューリップなどの球根を、現場は見えていませんがどうも抜き取ってしまうようなのでした。こちらは趣味で球根やら、穀物を植えているのですが野生のキジにとっては命がかかっていますから、何かの特別な感覚で土の上からの的確にそれらの場所を知ることができるようなのでした。

鳥除けには網を張るしかないと思いました。ドイト（do-it-yourself）の店へ行って網を買い、冬の間5坪の畑にかかる蚊帳状のものを作り、周囲の木の枝から吊るしました。

次の年、地質も改良できたし、鳥除けも完成したしと思いましたが、収穫が思うようにいきませんでした。

庭の木を、ローマの松状態に

さて、その年、実は2005年の10月、イタリア南部を旅行しました。その時、特徴的な風景として印象に残ったのは、音楽の題にもなっている「ローマの松」でした。簡単にいうと、松の下枝をかなり高いところまで切り落としてしまい、高いところにだけ枝葉が残っているものでした。「これだ」と思いました。別荘の土地には、多くの木が生えていますが、緑の中に座っていることの心地良さから、できるだけ切らずに残そうとしていました。結果的に、庭全体に十分な日光がさしてはいませんでした。また、とくに梅雨の季節になると、湿気が多く、地下室の壁にはカビが生えていました。うちの木も、全部ローマの松にしてしまおうと思いました。何かに、年寄りには木に登るなと書いてありました。自分では大丈夫と思っても危険だからでしょう。また、ドイツへ行ってみると、近頃はいろいろと便利なものを売っています。柄の長いノコギリや、さらにその柄を伸ばすことのできる

ノコギリもあったのです。結局、冬の間かかって庭中の木の下枝を、2メートル位の脚立に乗って4メートル近くまで延ばすことのできるノコギリの届く限りの枝ほぼ全部切り落としました。庭は、日が差し込んでとても明るくなりました。そして、家の中も明らかに湿気が少なくなった感じがしています。大量に切り落とした下枝は、暖炉の薪にするのです。

#### 好きだからやれる庭仕事

妻は、「好きでやっているのだから」といっています。私も、これが強制される労働なら、とても全うすることができないと思います。なんだか知らないけど、楽しみながら好きでやっています。さて、2006年の収穫はどうなるでしょうか。

労働対収穫比、あるいは費用対収穫比の観点からすれば、極めて低効率です。しかし、はっきり表すことのできない癒しともいえる

心の安らぎが得られることは確かです。

実は庭仕事には、いろいろな楽しみを見つけ出すことができます。数年前、ふと思いついて、カナダでやるように楓から蜜を取ろうと思いました。これには、遠い昔の経験がありました。第二次世界大戦の終わりころ、甘いものが口に入らなくなっていました。そこで、札幌で、春早くにイタヤカエデの幹に穴をあけたり、枝を折ったりして樹液を集め、それを煮詰めてメープルシロップを作った記憶がありました。60有余年の昔です。まず出鱈目に紅葉する楓から集めた樹液を煮詰めてみましたが、さっぱり甘くなりませんでした。そこで、何とかして甘い樹液を出す楓の木を手に入れようと旧上九一色村周辺の樹木業者に尋ねてみたのですが、だれも知らないチンプンカンプンだったのです。2005年の夏に札幌へ行ったとき、札幌の業者に話をして3本の苗木（sugar maple）送ってもらい、別荘の庭に植えたのです。2006年の春早く、1メートル



ル足らずの苗木は生着していたようなのですが、幹の先端が3本とも鋭い刃物で切り取られたようになりました。これは、春先になって食べるものがなくなった頃、ウサギがかみ切るのだということを経験で知っていました。どうも、sugar maple などには木自体に甘い味があるようで、選びながら噛み切っているようでした。そこであわててドイツへ行き、金網の筒を作って巻きつけました。3本の苗木は、すべて新葉がついてすくすくと育ちつつあります。数年後には、シロップを取ることを夢見ています。

「御免、御免」といいながら自然の動物と争わなければならない大変な庭仕事なのです。そして、ガイド本・マニュアル本には書かれていないことを経験しながら覚えるのが自然での生活なんだと思います。

挿絵：ニューカレドニアのイルデパン ( ile des pins )。イルデパンは、直訳すると、松島で

す。しかし、pin は一般に針葉樹を意味するらしく、実はマツボックリ様ではなく、鎧様でしたからスギ・ヒノキに近いもののようでした。入り江は lagoon と呼ばれる浅瀬で、干潮になると数千メートル先まで砂地になります。